

2016 年度入試動向 まとめ

2015 年 12 月 1 日

関 孝平

資料： ベネッセ 2016 年度入試出願指導研究会 (11 月 11 日@ベルサール新宿)
駿台予備校 難関大学入試動向研究会 (11 月 25 日@駿台池袋校)

*注意： 2 つの資料で数字が異なる場合は、原則ベネッセのものを優先し、難関大学については駿台を利用している。

A 全体的な傾向

① 受験人口の減少

- ・現役生が増えている、既卒生の減少（既卒生はついに 10 万台を割り切る）

② 2016 年度は大きな入試科目の変動がなく、ある程度落ち着いた入試に。

- ・2015 年度は新カリキュラムへの移行期であり、特に「基礎科目、専門科目」と 2 つに区分けされた理科を中心に、入試科目の変更が相次いだ。
- ・2015 年度はセンターでの理科を嫌う傾向 → 私大傾向、安全志向に影響

③ 安全志向に落ち着きが見られ、チャレンジ志向が増えた。

- ・2015 年度入試は新カリキュラム移行期であり安全志向が目立った。
- ・2016 年度は文系でチャレンジ志向と安全志向の二極化が見られる

④ 理高文低が落ち着く。文系は回復基調、理系は高止まり。

- ・2015 年度は理高文低に落ち着きが見られ、底打ち感があったが、今年はずいぶん文系が増え、2014 年度入試の水準に戻る。
- ・そうは言っても 2 年前の水準に戻っただけ。全体的には文系はまだ少ないと言えるので、恐れず強気受験を。

⑤ 志願者指数が国公立、私立の両方で UP。特に首都圏私立の上昇ぶりは顕著。

- ・2015 年はセンター理科の影響もあり、難関国公立を避け、私大に流れる傾向があった。「これまでにないほど私立の志願者指数が増えた」と分析した。
- ・2016 年度は国公立も増え、2014 年度の水準に戻る。さらに、私大は昨年度よりさらに指数が増えた。全国というより首都圏に限定された現象であるが、私立志向が上昇。
- ・志望者指数： 2016 年度 国公立 102、私立 105（前年度を 100 として）

2015 年度 国公立 98、私立 104

- ⑥ 東大後期試験廃止により、難関大学後期が志望者数増加
 - ・一橋、東工大などが顕著に影響
 - ・その他、筑波なども二次的影響の可能性あり

- ⑦ 教育学系統、自分科学系統における学部学科の改組
 - ・特に教育学系統は「ゼロ免」(教職免許を卒業要件としないカリキュラム)の廃止を中心に、昨年度から改組が相次ぐ。

- ⑧ 国公立大での受験科目増加 (特に英語を重視する傾向)

- ⑨ 国公立は B 判定を目安に出願指導 (1 回受験のため)
私立は C 判定を目安に出願指導 (複数回の受験が可能のため)

B 学部系統別動向

① 文系が全体的に上昇、理系は低調

② 国際関係、グローバル系の人気上昇

・2015 年度は「過去 5 年間で 150%の志望者増」と掲載したが、今年も継続 UP。2015 年度は国公立敬遠の影響もあったが、今年は国公立、私大ともに上昇。新設学部の影響もあり。

・国公立指数： 昨年 99 → 今年 113 私立指数： 昨年 108 → 今年 113

・国際系、地域貢献志向型の学部新設が見られる。

2016 年度 = 千葉・国際教養、学習院・国際、近畿・国際

2015 年度 = 青山・地球社会共生、順天・国際教養

2014 年度 = 上智・総合グローバル

③ 法学系統の人气が回復（継続）

・一昨年まで不人気が続いていたが、昨年から指数 113 となり、さらに今年は国公立 113、私立 110 となる。（首都圏では特に顕著）

④ 経済系統の人气が回復

・2015 年度は、「経済は不人気（経営、商学といった実学系は人気傾向もる）」ということだったが、今年は経済学自体も人气が回復。

・指数 国公立 109、私立 110

⑤ 国公立は社会科学系の人气が上昇

・指数 128 （私立は 101）

⑥ 教育系統の志望者が減

・学部・学科の改組が相次ぎ、募集人数や入試の変更も多いことから特に国公立は敬遠され気味。文系全体が増えている中で、低調と言える。

・指数 国公立 98、私立 102

⑦ 工、建築が人気

・震災復興、オリンピックの影響も

・工は理系全体が減っている中で、国公立 100、私立 102 といったように昨年度と同等の指数を維持

⑧ 農は良くも悪くもずっと安定

・指数： 国公立、私立ともに 101

2016 年度入試動向 まとめ

⑨ 薬の志望者減

- ・2014 年度まで人気傾向の薬学は、2015 年度人気上昇が落ち着き、今年は志望者を減らしている。
- ・指数 国公立 97、私立 98

⑩ 歯の志願者減

- ・昨年は一昨年の反動で UP（私立 114）したが、今年はそのより戻しか。
- ・指数 国公立、私立ともに 96

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試の志望者指数 推移

	2016 年度受験生（2015 年模試）		2015 年度受験生（2014 年模試）	
	国公立	私立	国公立	私立
全体	102	105	98	104
人文科学	107	105	96	102
語学	108	107	103	105
法学	113	110	101	108
経済・経営・商学	109	110	97	104
社会学	128	101	101	101
国際科学	113	113	99	108
教員養成・教育学	98	102	97	104
生活科学	102	100	95	103
芸術学	108	101	115	103
総合科学	101	110	99	102
保健衛生学	101	104	98	106
医学	99	107	100	100
歯学	96	96	101	114
薬学	97	98	92	99
理学	97	98	93	100
工学	100	102	101	105
農・水産学	101	101	99	104
体育	98	98	106	109

C 偏差値層別動向

- ① 全体としてはチャレンジ志向が目立つ。
 - ・2015 年度は安全志向で上位層が減り、下位層の受験者 UP が目立った。今年は、上位層の強気志向が見られる。

- ② 国公立文系： どの層でも文系は指数 104 以上
 - ・偏差値 70 以上： 指数 112
 - ・偏差値 40~50： 指数 108 → 二極化

- ③ 国公立理系： 全体的に低調
 - ・偏差値 40~70 まで： 指数 99~100
 - ・偏差値 70 以上： 指数 106 → 上位層の強気受験

- ④ 私立文系： 上位層で強気受験
 - ・偏差値 60~70： 指数 108
 - ・偏差値 70 以上： 指数 109

- ⑤ 私立理系： 下位~中位層は低調。上位層で少しだけ指数を上げる
 - ・偏差値 40~60： 指数 98~100
 - ・偏差値 60： 指数 101
 - ・偏差値 70 以上： 指数 103 → 上位層は強気受験

D 大学別動向 国公立 (特別表記がない場合は前期試験)

<概況>

【難関国公立 10 大学】

- ① 全体では文系で志願者増、理系はやや増程度
 - ・ 10 大学全体での指数は 102
 - ・ 2015 年度は特に文系は弱気志向だったため、その揺り戻しが一因。
- ② 東大、一橋、京大、阪大、東工大は志願者増
 - ・ 東大： 指数 文系 115、理系 106
 - ・ 東大文系も志願者回復か
- ③ 神戸大は志望者減： 前期文系 98、前期理系 94、後期文系 95、後期理系 103
- ④ 上位層が受験をする駿台全国模試では北大（文系）、東北大、神戸大、九州大が志望者減となっている。一方、名大、阪大に志望者増が見て取れる
- ⑤ 後期は東大後期廃止の影響で、一橋大、東工大で志願者大幅 UP
 - ・ 指数： 一橋大 160、東工大 220

【関東主要国公立】

- ⑥ 文系前期は全体的に上昇傾向
- ⑦ 筑波大学が全体的に上昇
 - ・ 2015 年度は大きな入試変更があり志願者減。その揺り戻しと考えられる。
- ⑧ 千葉大、前期 119、後期 109
 - ・ 新設の国際教養の影響。国際影響を除くと前期の指数は 103 で昨年よりやや増。
- ⑨ 電気通信大が減少（指数 89）
 - ・ 前期は理科 2 科目の受験が敬遠されている（指数 89）
 - ・ 後期は理科 1 科目＋募集人数増加につき、人気大幅 UP（指数 163）
- ⑩ 埼玉大の後期は指数 63
 - ・ 教育学部後期の廃止による。教育学部を除くと指数 98、やや減。

【大学別】

<東京大学>

- ① センター利用の推薦入試が始まる。計 100 名。→ 一般選抜の募集枠が減。
- ② 後期日程廃止 → 当然、東大志望者は前期に集中 & 一橋、東工大の後期を中心に影響
- ③ 志願者増（特に文系に顕著）
 - ・ 指数： 文Ⅰ 113、文Ⅱ 108、文Ⅲ 108
 - 理Ⅰ 106、理Ⅱ 113、理Ⅲ 101（駿台全国模試）
 - （ベネッセ資料では全体的に志望者増。駿台では上位層が減っている場合も。）
- ④ 文Ⅰ： 志願者、上位層が増加 → 難化が予測される
 - ・ B 以上が増加傾向

2016 年度入試動向 まとめ

- ・これから伸びる可能性のある C 以下の層が多く控えている。
- ・後期併願： 一橋・法が増加、その他、阪大、一橋、経済、九大と続く。
- ⑤ 文Ⅱ： 志願者増も、上位者が減少（偏差値差-0.8）
 - ・後期併願： 一橋・経済が圧倒的、その他、一橋・法、東北大・経済。
- ⑥ 文Ⅲ： 志願者増も、上位層が減少（偏差値差-1.2）
 - ・後期併願： 一橋・社会が増加。そのあとも一橋が経済、法と続く。
- ⑦ 理Ⅰ： 志願者増も、上位層が減少（偏差値差-1.3）
 - ・後期併願： 東工大 7 類が増加、東北大、九州大も人気。一橋・経済の併願も。
- ⑧ 理Ⅱ： 志願者増、上位層はやや減少。
 - ・ただし、今後Ⅲ類に志望変更する生徒も出てくる可能性あり。
 - ・後期併願： 東工大・7 類が圧倒的増加。その他は一橋・経済、北海道大、千葉大。
- ⑨ 理Ⅲ： ややレベル DOWN。しかし、そんなこと関係ないぐらい超ハイレベル
 - ・昨年度の爆発的な医学部人気の揺り戻しが多少ある程度
- ⑩ 後期廃止の影響は文系は一橋、理系は東工大に。その他の大学にも一定程度影響あり。

<一橋大学>

- ① 東大後期廃止の影響が大きく、激しい争いが予想される。
- ② 全体的には志望者増も、どの学部も B~D の層が減少し、易化傾向か。
 - ・上位層が東大受験に移ったとみられる。
- ③ 法： 志願者は昨年並み、上位層が増え、下位層が減った。
 - ・他学部が軒並み志願者指数を増加させた中で、法学部だけは唯一 99 と指数を下げた。（2015 年度は志願者が減ったものの、やや難易度は上がっていた。）
 - ・上位層の減少部分は、東大文Ⅰの増加と一致。
 - ・前期志望変更先は例年と同様に東大文Ⅰが一番多いが、今年はさらにその数を伸ばした。」つづいて、京大、大阪、東北大と続く。東大文Ⅲ類もベスト 5 に入ってきた。
 - ・後期は東大志願者の併願が多い。併願志望校ベスト 5 に東大Ⅰ~Ⅲ類すべてがランクイン
- ④ 経済： 志望者指数 119 で大幅増も偏差値は-1.9
 - ・上位層の減少部分は、東大文Ⅱの増加と一致。
- ⑤ 商： 志願者増も、上位層が減る。
- ⑥ 社会： 志願者指数 104 の微増、偏差値は-1.2
- ⑦ 経済、商、社会はここ数年偏差値 60 代後半の合格率が上昇

<東京工業大学>

- ① 学部学科改組： 3 学部 23 学科 → 6 学院 17 系
 - ・入試時の募集単位は第 1 類~第 7 類のまま変更なし
- ② 第 1 類は推薦入試（10 人）、第 2 類~第 7 類は AO 入試（10~20 人）
- ③ 第 2 類~第 7 類は募集定員の変更あり。

2016 年度入試動向 まとめ

- ④ 第 1 類： 志望者減（指数 87）、偏差値 -2.3 で易化予測（東大に流れたと考えられる）
- ⑤ 第 2 類： 志望者減（指数 93）、偏差値 -0.8 でやや易化予測（東大に流れたと考えられる）
- ⑥ 第 3 類： 志望者減（指数 97）、偏差値 -2.0 で易化予測（東大に流れたと考えられる）
 - ・特に C ライン以上の志望者減が目立つ
- ⑦ 第 4 類： 志望者増（指数 150）も募集人数変更もあり、昨年並みか。
 - ・2015 年度は志望者、レベルともに UP し難化
- ⑧ 第 5 類： 志望者指数大幅増加（指数 119）、平均偏差値も $+0.8$ で上位が厚くなっている。
さらに募集人数が 4 名減 → 難化
- ⑨ 第 6 類： 志望者増（指数 106）も、上位がそこまで厚くなく、募集人数 7 人増もあり、昨年並みの難易度か。
 - ・震災、オリンピックの波で、ここ数年人気、難化傾向
- ⑩ 第 7 類： 志望者減（指数 88）、偏差値減（ -0.7 ）で上位層が薄い。ただし、AO 入試の導入に伴い、一般枠は大幅な募集人数減が進んでおり、大幅な易化となるかは疑問。
 - ・募集人数変更： 2014 年度 133 人 → 2015 年度 113 人 → 2016 年度 95 人
- ⑪ 英語の試験が難しくなりつつある
 - ・グローバル人材育成のため、理数系だけでなく英語も重視するバランス型入試
 - ・グローバル企業就職率 国内 NO.1 22%

<京都大学>

- ① 全体的に元気、近年東大に追いつく勢い
- ② 経済、教育、工<建築>： 志願者大幅増（指数は前から 132、129、137）
- ③ 法（後期）： 前期の併願は京大 54%、東大 43% ← 東大後期廃止からの流入
- ④ 工、農： 学科別募集から学部別募集に変更。
工学部は第 2 志望まで、農学部は第 6 志望まで選択可能。

<北海道大学>

- ① 前・後期ともに文系は増加志向
 - ・経済は志望者指数 122、
 - ・教育は前後期ともにダウン（前期 87、後期 83）
 - ・昨年指数 117 の法は、多少落ち着くも 107
- ② 医は 124 で続伸（昨年の指数は 125）

<東北大学>

- ① 募集人数の変更あり。一般入試の募集人数減
 - ・東北大は入試改革に合わせ、全学部で一般と AO の割合を 7 : 3 にすることを進める
- ② 経済： 後期がさらに難化の傾向
後期受験者の前期の併願先、1 位東北大は 11 ポイント減。一橋、東大、京大が増加。
- ③ 教育： 昨年の志望者指数 70 から今年度は反動で 117 へ（昨年一昨年の反動）

2016 年度入試動向 まとめ

- ④ 農： 昨年は安定の指数 116、今年はやや減の 98。偏差値も 0.2 下がる。
- ⑤ 工： 募集人員-24 人に反して志願者指数 111。
- ⑥ 理： 前期は前年度並み、後期は指数 117 に加え、偏差値+1.3。
後期受験者の前期の併願先は、東大が 13 ポイント上昇で 1 位に。

<筑波大学>

- ① 2015 年度の揺り戻し+第一次選抜廃止に伴い、志望者回復
 - ・ 2015 年度は入試変更が多く、敬遠された
 - 例) 人文・文化、社会・国際：センター5科目 → 15 年度 フルセット
 - 医（看護）： 国語必須 → 15 年度 国語 or 理科の選択
- ② 社会・国際： 指数 118
- ③ 人文・文化： 入試変更 地歴 1 科目、公民 1 科目 → 地歴公民から 2 科目
後期指数 105、偏差値+1.3
- ④ 情報（文・理）： 指数 前期は 106、119、後期は 123、123
 - ・ ③、④ともに東大後期廃止の影響もあるか。（東大 → 一橋、東工大 → 筑波）
それぞれやや難化傾向。

<千葉大学>

- ① 2015 年度は入試変更が多く、全体的に志望者減が目立ったが 2016 年度は一部人気に戻る。
- ② 募集人員を圧縮し、後期では全学部英語を必修とする。
- ③ 新設の国際教養に注目
 - ・ 90 名（通常型 80 名、特色型 10 名）の募集 ← 9 月志望者 654 名
 - ・ 後期併願： 国際教養代、新潟県立大、埼玉大、東京外大、など
 - ・ 私大併願： 明治・国際日本、早稲田・国際教養、立教・異文化コミ・など
 - ・ B 判定基準： 筑波・社会国際 > 千葉・国際教養 > 千葉・文 > 横市・国際総合
- ④ 法政経：
 - ・ 募集人数の変更
 - 推薦入試廃止、前期募集人数 272 人 → 295 人
 - ・ 新規入試「経済学得心プログラム選抜」
 - センター+面接、英語外部検定が出願条件
 - ・ 2015 年度から入試変更し、個別重視型へ。
 - ・ 昨年度前期は募集定員を増やが、志望者指数は回復しなかったが、今年度は志望者指数が 121 と大幅に回復。特に県外からの志望者数が増加（北陸新幹線ラインの充実）。
上位者も増加（前後期共に指数 130 後半） → 難化必至。
 - ・ 後期は一橋・法との併願が増える。難関大学との併願関係が強まる。 → 難化
- ⑤ 教育： 個別試験において英語を必修化。理系の志願者減（指数 84）。文理合計は 97。
 - ・ 東京学芸大、埼玉大に流れる
 - ・ 千葉は個別重視、埼玉はセンター重視

2016 年度入試動向 まとめ

- ⑥ 理： 前後期共に志願者減
- ⑦ 医： 2015 年度から個別重視型に移行。
 - ・ 2015 年度は変更を嫌い志望者指数 83。今年は回復（前期 115、後期 119）。
 - ・ 2014 年 セ 900/個 1000 → 2015 セ 450/個 1
- ⑧ 園芸： 2015 年度から外国語が追加され、昨年度は敬遠されていた。前年並み。
今年は後期で小論文が総合問題に。
- ⑨ 工： 理、工ともに全体は前年並み
 - ・ 昨年度指数 279 の大人気となった画像科学、情報画像は 124、116 でなお続伸

<横浜国立大学>

- ① 経済： 昨年度は志願者が減ったが、今年度は志望者数増加（指数 114）
 - ・ ここ数年センター得点率 70%台後半以上が目安
 - ・ 数学、英語ともに記述模試偏差値 60 代後半を確保したい
- ② 教育人間： 志望者指数 92、特に B 判定値（57）前後の減少が顕著。→ 易化
センター公民は現代社会が選択不可に。
今年度で募集終了。2017 年度は学部改編。
- ③ 理工： 全体は前年並み、建築は地球生以外で志望者増
 - ・ 私大併願先： 1 位は明治・理工、芝浦工大が上昇して 2 位に。

<横浜市立大学>

- ① 国際総合科学は志願者増
 - ・ 指数： 文系 111、理系 138
 - ・ 理系は昨年度指数 80 の反発、偏差値層も 1.0 なので難化必至

<東京外国語大学>

- ① 言語文化、国際社会： 2015 年度は難化。偏差値 60 代前半の合格者が減少。
- ② 国際社会、言語文化： 指数 106 と続伸
 - ・ ①、②ともに 2015 年度はグローバル人気で上昇していたので、今年はやや増加程度だが依然として人気・難易度の高さは変わらない。
 - ・ 昨年度同様、偏差値 70 台付近の上位層における志望者数が多い
- ③ 国際/アフリカでは募集変更も：
2015 年 前期 15 人 → 2016 年 前期 10 人 + 後期 5 人
- ④ 2015 年度から入試科目の変更による受験者層各大
(個別試験の日本史追加：477 人/1788 人、27%・・・前年度 19%)
 - ・ 昨年度の日本史選択者の合格平均偏差値： 言語文化 61、国際社会 64
(世界史と大差なし)

2016 年度入試動向 まとめ

<東京学芸大学>

- ① 2015 年度 教育学部改変、募集人数変更
 - ・2014 年 教育系 730 人 → 2015 年 学校教育系 825 人 (拡充)
 - 教養系 335 人 → 教育支援系 185 人 (縮小)
- ② 前期は昨年度と変わらず
- ③ 後期は文系が指数 90、理系が 110。偏差値層はややダウン。

<東京海洋大学>

- ① 2016 年度より英語外部試験のスコア提出が義務化
- ② 前期、後期共に志望者増 (指数 113、126)
- ③ 海洋工： ここ数年実質倍率が上昇、2015 年度前期は前年並み、後期は志望者増
- ④ 海洋科学： 志望者やや減少

<電気通信大学>

- ① 学科改組： 4 学部 → 3 類 (情報系、融合系、理工系)
- ② 募集形式変更： 前期 学科別募集 414 人 → 学域一括募集 370 人
後期 学科別募集 207 人 → 類別募集 250 人
 - ・実質は後期の枠が拡大、理科 1 科目も受けやすい
- ③ 前期： 理科 2 科目が必須に。募集人数減。 → 志望者大幅減 (指数 78)
 - ・ここ数年志願者増加、レベル上昇が顕著だったが、今年度は入試変更の影響で志望者減に。
- ④ 後期： 理科 1 科目受験。募集人数増。 → 志願者増 (指数 141)
- ⑤ 個別重視型、さらに上位 50 名は 2 次の結果のみで合格になる
→ 東工大のようなスペシャリスト育成志向、それが人気につながっているのか？

<東京農工大学>

- ① 8 学科中 4 学科で募集人員が増加。
- ② 前期： 理科 2 科目が必須に。 → 志望者減 (指数 94)
- ③ 工 前期： 2015 年度からセンター重視型に移行 (セ 900/個 500)
 - ・志望者減も B 以上は変わらず
 - ・センター70%前後からの 2 次逆転合格は厳しい
- ④ 工 後期： 2015 年度に除外された数学が 1 年で復活。
- ⑤ 農： 志望者数は前年並み、ただし上位層は減

<首都大東京>

- ① 都市教養 前期： 理科 1 科目。志望者増 (指数 120) も B 未満の増加が多い。平均偏差値は -0.6。
 - ・千葉大・法政経を志望変更先として考える志望者数が増加

2016 年度入試動向 まとめ

<埼玉大学>

- ① 2015 年度は全体として低調。2016 年度は一部を除いて前年並み。回復には至らず。
- ② 経済（一般枠）が志望者増。国際枠からスライド。
 - ・指数 113。上位者層も増加（指数 114）。B 以下も増加。
 - ・千葉大の次点。千葉大の層がどう動くのかに影響される。
- ③ 経済（国際枠）が志望者減（指数 60）
 - ・昨年度（指数 138）の反動
 - ・今年度から 2 次で小論文が課される。負担増を敬遠。
- ④ 教育：2015 年度は学部再編&募集人員自体を減らし、志望者もそれ以上に減らした。
 - ・ゼロ免廃止済み。
 - ・今年はさらに後期廃止 → 前期は志望者増（指数 110）。
 - ・後期廃止の影響： 都留文科大・後期併願の志望者増
- ⑤ 理系： ここ数年実質倍率の低下が見られていた、2015 年度の志望者指数は前年並みだったが、今年は総じて志願者減。
- ⑥ 理： 志望者数減。
- ⑦ 工： 2015 年度は全学科で上位層の志望者数が増（センターの国語が現代のみで出願できるようになった影響）。今年度は志望者指数 99 で前年並み、平均偏差値 -0.9。
建築工は指数 115 で増加。
- ⑧ 教養 後期： 小論文が追加

<お茶の水女子大学>

- ① 理： 2015 年度は入試変更が行われ、個別入試に英語が加わるが、（女子なので理系でも英語がプラスに働いたか）人気上昇していた。2016 年度は指数 90、平均偏差値 -1.1。
- ② 生活科学： 生活科学 前期（文系）は志望者増 132 も平均偏差値は -1.4。

E 大学×学部系統の動向 <国公立>

- ① 人文科学： 志望者指数 107（昨年度 97）
- ② 法学： 全体的に志望者増（指数 111）。右上がりの強気傾向
- ③ 経済： 全体的に志望者増（昨年は経営、商は除いて志望者減）。
主要大学では 100 を切る大学なし。右上がりの強気傾向。
- ④ 社会・国際： とともに指数 111。全体的に志望者増の傾向。
・埼玉大・経済（国際枠）は論文負担で指数 60
- ⑤ 教育： 教育全体の指数は 97、英語系に絞ると志望者増の大学が多い
- ⑥ 物理： 指数 98。トップ層を除いて不人気
- ⑦ 化学： 指数 95。トップ層を除いて不人気。
- ⑧ 建築・土木： 指数 107。当分は人気継続。
・科目負担減の筑波、首都大東京が人気。
- ⑨ 農・水産： 指数 98。
・東大人気。科目負担増の茨城大は志望者大幅減。
- ⑩ 薬学： 西日本の薬学系統は不人気（4 年制志望者は少なく、6 年制は多い）
- ⑪ 看護： 理系選択指定パターンが影響
・2015 年度は基礎 2 科目が人気、専門科目のみが不人気の傾向強い
・東京医科歯科大はもともとの人気に加え、基礎科目での受験が可能 → 志望者増

F 大学別動向 私立

<全体>

- ① 首都圏私立の志願者数は増加。志望者指数 105。
 - ・早慶上智、MARCH の大幅増、日東駒専は増加傾向、大東亜帝国がやや減少
- ② 理系は大幅な増減はない。理系人気高止まり。
 - ・東京理科大は減、芝浦工大が続伸
- ③ 志望者増の目立つ大学： 早稲田、慶応、明治、青山学院、中央、学習院、日本、駒澤、東洋、国学院、成城、明治学院

<慶応大学>

- ① 昨年に続き全体的に志望者増。特に文系学部、看護医療での上昇が顕著。ただし、レベルは総じてダウン。
 - ・2014 年度まで 6 年連続で志望者を減らしていたが、2015 年度は私立人気に加え、入試日の前倒しにより国公立層を取りこみ、久しぶりに志望者が増えた。今年度もその勢いを維持している。
- ② 昨年度の入試前倒しにより、今年度も医、環境情報の 2 学部（昨年度は医、経済）を除いて、国公立前期試験の前に合格発表が行われる
- ③ 経済： 募集人数の変更 = A 方式、B 方式で 90 名減 + PEARL 方式（9 月入学）募集人員減にもかかわらず志望者増指数 122。
 - ・難関国立との併願、慶応大内での学部間併願
 - ・A 方式（数学受験）は志望者指数 121。平均偏差値が 1.2 下がるも、上位層の増加+募集減で難化傾向。
 - ・B 方式は志望者指数増も上位層は A 方式ほど増えない。募集減もありやや難化
- ④ 商： 志望者指数 122。C 以上の志望者増で難化。
 - ・2015 年に募集人数を 700 名から 600 名に減らしたが、指数 110 と志望者を増やした。今年度はそれ以上に志望者が増え、ここ 2 年で少しずつ難化している。2015 年度入試では合格率 40%（いわゆる D ライン）付近の偏差値が上昇。
 - ・一橋大、東大との併願者数が増加。
- ⑤ 看護医療： 入試変更 小論が 2 次から 1 次試験へ

<早稲田大学>

- ① 全体的に志望者増。ただし、C 以下の増加が多く、難易度に大きな変化なし。
 - ・2015 年度まで 7 年連続志望者を減らしており、全国的に私大人気となった 2015 年度も志望者を減らしてしまった。2016 年度は久しぶりに志望者増。
- ② センター利用入試も全体的に増。
 - ・文、文化構想は併用方式の志望者は減

- ③ 文、文化構想でセンターのみの新規入試
- ・2016 年度 募集人員はセンター併用とセンター単独が 1 対 1 の割合
 - ・併用方式の志望者は減っているが、併用+単独を合わせると 2015 年度よりも志望者が増えている。(文：875→1027、文化構想：549→669)
 - ・センター後の 1 月 19 日出願可能
 - ・難関国公立志望者の出願が見込まれる。
 - ・9 割以上の得点率が合格ラインか
- ④ 商： センター入試での試験科目変更

<上智大学>

- ① 前年度並み。全国私大志望者指数 105 と比べると低調と言える。レベルもやや下がる傾向に。
- ・2015 年度は TEAP の影響、総合グローバルの勢い、インターネット出願で全体の指数が 120 を超える人気。今年はその人気も落ち着いた。
- ② TEAP 利用入試は全体的に志望者減
- ・基準値が昨年度より 15 点ほど UP。4 技能を課す学部も出てきて、敬遠する動き。
 - ・昨年基準点を超える生徒が大量に出て、むしろ「英語を活かせない」入試というイメージが強い。
 - ・2017 年度からは全学部で 4 技能が必須に。
 - ・TEAP 利用入試は他教科でも文章理解力、論理的思考力など総合的な力を問うものにシフト。400 字程度の記述を含む。
- ③ 総合グローバル： 志望者増 (指数 107)。C 判定値 (66) 付近がやや上昇。前年並み。
- ・2014 年度入試は初年度にして早稲田・国際と並ぶ難易度になり上智の外国語・英語の難易度を超す人気ぶり。
 - ・今年度も早稲田・国際教養、立教・異文化コミュに次ぐ人気。今年の模試動向では、立教よりもやや高いそうの志望者が申し込んでいる様子も。
 - ・今年度は ICU とバッティング (2 月 6 日)
- ④ その他、詳しくは MAX 入試研究 2「上智大学」を参照

<東京理科大学>

- ① 経営、工は学部改組、キャンパス移転
- ② 経営： 大幅増加 (指数 146)、上位層も指数 150 と大幅増加 → 難化
- ・キャンパス移転の影響 (久喜キャンパスが 2 年まで→1 年のみ) で昨年度も志望者増。今年度も続伸。
 - ・C 判定以上が増加、B 以下は減る。
 - ・ビジネスエコノミクス学科を新設 (ビックデータによるビジネス分析など) 募集 90 名に対して 215 名の志望者数
- ③ 工： 情報工は大幅増加 (指数 230)、上位層も指数 211 と大幅増。 → 難化
- ・16 年度より経営工、情報工が学科改組 + 葛飾キャンパスへ移転

2016 年度入試動向 まとめ

- ・人気の工 + 2015 年度募集人数増加（建築、電気工、機械工の全てで 90 名→110 名）
- ④ 理： 志望者減、上位層も減少
 - ・ 2016 年度は慶応・理工とバッティング
- ⑤ 薬： 首都圏私立薬学系等で初めて数Ⅲまで出題範囲（関西では立命館）
 - 負担増で志望者減（指数 79）
 - ・ 昨年度から人気に落ち着きが見られ、C 判定値 61 以上の志望者減少していた

<ICU>

- ① グローバル人気
- ② 昨年度は志望者増、難易度 UP で 3 倍台の倍率を回復。今年度も引き続き志望者増、上位層増。特殊なため、大幅な志望者増にはならないが安定的に増加。
- ③ 昨年度から入試変更
 - ・ B 方式： TOEFL、IELTS のスコアを採用（募集人員 10 名）
 - ・ A、B 方式共に新科目「総合教養」の設置
（15 分のミニレクチャー + 論文を読む → 設問 40～45 問）
- ④ 入試日変更： 2 月 7 日 → 2 月 6 日
 - ・ 立教・異文化とのバッティングは引き続きなし
 - ・ 法政、GIS とのバッティングも解消
 - ・ 上智・総合グロ、立教・全とのバッティング

<明治大学>

- ① 特に文系で志望者増
- ② 文： 志望者増
 - ・ センター利用でこれまで理科は専門のみだったが今年度より理科基礎科目も選択可能 → 負担減
 - ・ 85%の得点率を目指したい。
 - ・ 2015 年度は募集人数増加されるも前年並み
 - ・ 上位層の増加は少なく、難易度は前年並みか
- ③ 経営： 2015 年度は入試変更の影響もあり志望者減少、今年も戻らず志望者数は前年並み。
上位層は大幅減（指数 82） → 易化傾向
- ④ 政治経済： 志望者増。
 - ・ 2015 年度は実質倍率 2 倍台。今年度はその反動。
 - ・ C 判定以上の志望者増 → 難化予測
 - ・ 模試では立教・経済よりも高い集団が見られる
 - ・ 早稲田・政経、明治・政経に続き、立教・経済、日大・経済との併願増加
- ⑤ 総合数理： 新設 4 年目。ここ数年の上昇の反発か、今年度は志望者減。
- ⑥ 理工： 上智・理工が 2 月 8 日に統合され、バッティングが解消

2016 年度入試動向 まとめ

<青山学院大学>

- ① 大学全体の志望者増
 - ・2015 年度は地方入試（名古屋、福岡）を導入し、志望者を増やした。今年度もこの 2 地域からの志望者増が継続。
- ② 文学・英米、総合文化政策、地球社会共生などで TEAP 導入。
- ③ 地球社会共生： 新設 2 年目。全体では志望者増（指数 109）
 - ・センター方式、追加（10 名） + 全学部入試・募集人数減（-10 名）
 - ・個別では指数 82~84
 - A、B 方式ともに募集人数は変わらず
 - ・昨年人気の A 方式は上位者層大幅減（指数 43）
 - ・新設の学習院・国際社会とバッティング（2 月 11 日）
- ④ 総合文化政策： A 方式は 2015 年度は実質倍率 12 倍以上だったが、今年は志望者増が全体（指数 128）でも上位層（指数 118）で見られ、引き続き厳しい入試に。
 - A、B 方式ともに入試日変更がどう影響するか注視
 - ・入試日程の変更： A 方式 2 月 14 日 → 2 月 21 日
B 方式 2 月 21 日 → 2 月 10 日

<立教大学>

- ① 大学全体は前年並み。文系のほうがやや上昇している学部が多い。
- ② グローバル方式（2 月 6 日）を導入。全学部で合計 100 名。
 - ・英語外部試験の受験義務
 - ・一般入試の全学部入試と同日。入試問題は共通。
 - ・学部・学科によっては一般方式よりも受けやすい。
- ③ 異文化コ： 2015 年度実質倍率 11 倍台。今年も前年度並み。
 - ・2010 年から立教の中でレベル上昇が顕著（合格者平均値 67.7→69.6）
 - ・2015 年度は ICU とのバッティングが解消。2016 年度もバッティングなし。
- ⑤ 理： 国語、理科選択に入試変更あり
- ⑥ 経済： 昨年度より志望者数増加（指数 111）、上位者も増加（指数 108）。昨年の反動あり。
 - ・2015 年度より慶応・経済と入試日程バッティング。2015 年度は 300 人以上受験者を減らす。

<中央大学>

- ① 学部全体として志望者増。
 - ・2015 年度は多くの学部で志望者減少。今年度は大幅な回復基調。
 - ・近年は理高文低で文系学部の調子が悪かったが、今年度は全国傾向と同様、落ち着く。
 - ・明治、駒澤、日本との併願者が増加
- ② 法： 志望者増。指数 124。C 以上の増加が目立つ → 難化予測
 - ・中央の看板学部。減少傾向だったが 2015 年度は歯止めがかかる（ただしレベ

2016 年度入試動向 まとめ

ルは下がった)。2016 年度は志望者増に転じ、レベルアップも確実。

・英語偏差値 67 を目安

③ 経済、文、商： 志願者増も、C 以下の増加が目立つ。 → 難易度変化なし

<法政大学>

① 志望者数増の学部が目立つ。

② GIS でも T 日程新規 → 全学部入試はすべて 2 科目で併願可能

・2015 年は T 日程のほうが個別より難易度高い。偏差値 70 前後が目安に。

③ GIS： 志望者増（指数 120）、上位層も増加（119） → 難化傾向

・ここ最近倍率の下落が目立っていた： 13 年度・10 倍、14 年・5 倍、15 年・3.5 倍。

・難易度は高く、2015 年度の合格者偏差値 69 と上昇傾向

・ICU が 2 月 6 日に移動し、バッティングが解消 → さほど影響はないか

④ 社会： 入試変更があり、負担減（3 科→2 科、歴史なし）で 2015 年度は倍率上昇（3.7→4.3）。2016 年度は志望者数増（指数 108）も、上位層は減る。

<学習院大学>

① 大学全体で志望者増。

・2015 年度は志望者減

② 国際社会： 新設。募集人数 100 に対して志望者 1270 の大人気。

・青学・地球社会の初年度は 110 名に対して 568 名（参考）

・志望者の集団は法政・国際文化と同等レベルぐらい

・第一志望者の併願先： 明治・国際日本、立教・異文化、早稲田・国際、など

・2 月 11 日に受験日を設定 → 青山・地球社会とバッティング

③ 法、経済： 昨年は志望者減、倍率が 2 倍台になる。今年度は志望者増。

・上位層の増加は経済で見られる。その他は前年並み。

・経済は 2 月 7 日から 2 月 6 日に移動

→ 上智、青山・全、法政、明学とのバッティングを解消

④ センター出願枠いまだなし

<國學院大学>

① 全体は前年並み～微増

② 文、法、経済で志望者増。

・学部内併願、日本、東洋との併願が見られる

・法は昨年度、志願者数大幅増化（指数 132）

③ 人間開発： 下降傾向が続いていたが、2015 年はやや持ち直す。2016 年度は募集人数増加するが前年並み。

2016 年度入試動向 まとめ

<成蹊大学>

- ① P 方式（国公立大併願方式）を文学部でも新規実施。
- ② 法、政経で志望者増。

<成城大学>

- ① 総じて志望者増
- ② 一般 A 方式の試験日前倒し。
- ③ 経済： 青学・経済との併願が増える。
武蔵、日大、明学と入試日がバッティング

<明治学院大学>

- ① 全体で志望者増。
・昨年度から全学部方式、地方入試の増設
- ② 文、経営で志望者増。
- ③ 国際・国際キャリア： 全学部実施、学内難易度が一番高く、C 判定 60 が目安。

<武蔵大学>

- ① 経済： 2015 年度は金融で倍率 10 倍を超えるなど人気だったが、今年度も指数 118 と志望者増。 → 難化予測
経済は 2015 年は志望者が減ったが、今年は全学部 128、個別 122 と志望者増。ただし、上位者は減少し、レベルは下がる可能性がある。

<日本大学>

- ① 2015 年度は N 方式の導入で全体の志望者数が大幅増（指数 127）。今年度はやや増。

<東洋大学>

- ① 全体はやや増。
・2015 年度は募集増加するも、全体志望者は減少。今年は揺り戻し。
- ② 文、法、経営： ここ数年の合格率 40% のラインが 2~4 ポイントも低下

<駒沢大学>

- ① 全体的に志望者増。昨年度より続伸。
- ② 文、法： 上位層の増加。
・明治、法政との併願が強まる
- ③ グローバル・メディア： 志望者数は増えるものの、上位者は減る。
・2015 年度は志望者数大幅増、特に C 判定 52 以上の増加
・昨年度からの入試変更： 数学の選択が不可、情報の選択が可能に

2016 年度入試動向 まとめ

<専修大>

- ① 総じて志望者数
- ② 文、法、経済、商： 志望者増か
- ③ 経営： 2015 年度は志望者を減らしたが、今年は回復。ただし上位層はやや減る。

<大東文化大学>

- ① 外国語、国際関係、環境創造で志望者減少（2015 年度は実質倍率 1 倍台）
- ② 経営： 学科改組 2 学科から 1 学科に

<東海大学>

- ① 経営、国際文化： 志望者減（2015 年度は実質倍率 1 倍台）

<亜細亜大学>

- ① 都市創造： 新設。募集人員 228 名に対して 75 名の志望者。
- ② 全学部入試を中期で実施。

<帝京>

- ① 全体的に志望者減、上位層も総じて大幅減。
- ② 入試変更： 経済、法、文で 2 科目から 3 科目。英語が選択から必須で負担増。
・2015 年度は外国語も英語を選択から必須にして志望者が減少（！！）

<工学院大学>

- ① 建築は人気継続。
- ② 学部総合入試： 入学後に学科選択

<芝浦工業大学>

- ① 大きな変動なし（2015 年度は大学全体の志望者増）
- ② 最近、芝浦工大は受かりにくくなったというもっばらの評判
- ③ 工： 近年、国公立（千葉大、電気通信大）との併願関係が強まっている
- ④ 昨年度の動向より： 50%偏差値増加、2 年間で 6 ポイントも UP、数年前の芝浦工大のイメージは通用しない

G 入試日程

<系統別>

① 法学

- 2月5日： 上智・国際法、明治・全、法政・全
- 2月6日： 立教・全、明学・政治
- 2月7日： 上智、青山・全、成城（2月13日から移動）
- 2月8日： 立教、法政・国際政治
- 2月12日： 中央が法と国際法（お金を払えば両学部とも受験可能）

② 経済・経営・商学

- 2月6日： 立教・全、学習院（2月7日から移動）、明学、成城（2月12日から移動）
- 2月7日； 上智、青山・全、法政、明学
 - 6日、7日は経済系統には外せない
- 2月11日： 東京理科・ビジエコ（新設）、明治、中央
- 2月13日： 慶應、立教、成蹊 → 立教にとっては慶應とのバッティングは苦しい
受験生にとっては分散傾向は嬉しい？
 - ・2015年度立教は300人以上減少
- 2月15日・中央、青学

③ 国際

- 全体的に早い時期に入試日が乱立している
- 2月4日： 上智、東京女子、明治学院
 - 2月5日： 上智・外、明治・全、法政・全、津田塾
 - 2月6日： ICU（2月7日から移動）、上智・総合グロ、立教・全
 - 2月7日： 青山・全、法政 GIS
 - 2月8日： 立教・異文化、法政
 - ICUと立教異文化、ICUと法政GISのバッティングは今年もなし
ICUと立教・異文化の併願が多くみられるか
ICUと上智・総合グロとのバッティング
 - 2月10日： 青山・総合文化政策B（2月21日から移動）
 - 2月11日： 学習院・国際社会（新設）、青山・地球社会
 - 2月21日： 青山・総合文化政策A（2月14日から移動）

④ 数学

- 2月7日： 明治・理工、（上智・理工が2月8日に統合）
 - 上智とのバッティング解消
- 2月8日： 上智・理工（A、B方式統合）、中央、学習院

2016 年度入試動向 まとめ

2月12日： 慶応・理工（2月14日から移動）、東京理科
→ 東京理科大の志望者減

⑤ 物理

2月5日： 東京理科、明治・全、法政・全

2月7日： 明治、青山

2月8日： 上智、中央、学習院

2月12日： 慶應、東京理科大

⑥ 建築・土木・環境

⑦ 薬学

2月1日： 北里、明治薬科、日本

2月3日： 星薬、東邦

⑧ 医学

変更が多いが、全体的に1日ずらしたので大きなバッティングがない
(昨年度は見事にバッティングがなく、今年度も同じ)

⑨ その他

- ・慶応は環境情報、医以外は国公立前期の前に試験日
- ・関西は2月8日までには受験が大方終了。全学部入試が多い。

H その他

① 大学のグローバル化

- ・SGU
- ・留学政策

② 入試改革

- ・グローバル入試、特色入試
- ・TOEFL、IELTS、TEAP、GTEC-CBT、など
- ・思考力や課題解決力をはかる入試